

NHK 連続テレビ小説「あさが来た」 主人公あさと梅花とのゆかり

NHK で放映中の連続テレビ小説「あさが来た」の主人公“あさ”は、明治期を代表する女性実業家・広岡浅子氏がモデルとなっています。彼女は、日本の女子教育の発展に貢献し、日本最初の女子大学校「日本女子大学校(現・日本女子大学)」創設にも大きく寄与した人物として知られています。さて、ではその彼女の生涯に大きくかかわった 2 人の人物が、梅花とゆかりがあることをご存知でしょうか。

1 人は、梅花女学校第 3 代校長・宮川経輝。大阪基督教会(もと梅本町公会。現在は大阪教会)牧師であった宮川は、成瀬の紹介で浅子と出会い、62 歳の浅子に洗礼を授けた人物です。浅子は以後 71 歳で亡くなるまで熱心なキリスト者として過ごし、1937(大正 12)年には彼女の新生 2 周年を記念して、宮川の説教集を編んだ『捨小舟』も出版しています。

もう 1 人は、浅子が開校に尽力した「日本女子大学校」の創設者・成瀬仁蔵。実は、大阪で最初の女学校である梅花女学校創立メンバーの 1 人で、1878(明治 11)年の梅花女学校開校時には、開校式辞を行った人物でもあります。成瀬は梅花女学校の在職中に浅子を訪れ、自著「女子教育」をもとに日本における女子教育の大切さを説き、女子大学校設立に向けて協力を求めます。その教育論に賛同した彼女の多大な貢献により、日本女子大学校設立は実現されることになるのです。

下記にて、成瀬とその革新的な女子教育のエピソードについて少しご紹介いたします。

女子教育の先駆者 成瀬仁蔵と梅花女学校

梅花女子大学の前身・梅花女学校は、浪花公会(現・浪花教会)牧師であった澤山保羅が中心となり、梅本町公会(現・大阪教会)の信者有志が協力して、土佐堀裏町(現・大阪市西区江戸堀 1 丁目)に 1878(明治 11)年に開校されました。(梅花の校名は、その「梅本町公会」と「浪花公会」にちなんで名づけられたものです。)

澤山から洗礼を受け、梅花女学校の中心的人物となった成瀬は、開校式の式辞において、「婦女子を培養するは、愛なる女学校を設立し、愛種を以て、婦女子なる田に蒔に如くはなし。」として、社会の礎を作る人と、その母となる婦人への愛をもった教育＝女子教育の重要性を説きました。

また成瀬の「女子の人格を認めて育成し、男子同等の教育を与えたい」という教育論は、そのカリキュラムにもよく表れています。当時の日本の女子教育の現場では、裁縫や家政など“良妻賢母”を育てるものがその学びの中心でしたが、梅花女学校では、当時から英学や数学、化学など、男子のものと変わらぬカリキュラムが導入されました。

成瀬が梅花女学校第 5 代校長就任時には、日本で初めて「球籠遊戯」(のち日本女子大学校で行われた「日本式女子バスケットボール」の原型)を授業に採用。女子の身体の健康のほか、集団意識や競争意欲の向上にも目を向けた教育を実践しました。これをして、成瀬は日本女子バスケットボールの最初の紹介者であるといわれます。

明治維新直後、女子が教育を受けようなどとは思ってもよらぬ時代一。

大阪は商人の街として発展しましたが、女子教育の現在につながる歩みが、明治の初め、確かに始まっています。女性が真の愛と教育を受けることで、日本の未来が必ず変わると信じた先人たちの情熱と使命感が、梅花の現在に続いています。

この件につきましてのお問い合わせ等は、発信者 藤原までお願いいたします。

住所：〒567-8578 大阪府茨木市宿久庄 2-19-5
TEL：072-643-6343 (直通) FAX:072-643-6277
担当：企画部広報グループ 藤原 (080-4170-3983)
E-mail：kikaku@baika.ac.jp

学校法人 梅花学園

梅花女子大学 / 大学院
梅花高等学校
梅花中学校
梅花幼稚園